

第2回 内閣府独立行政法人評価委員会 議事録

大臣官房政策評価官室

1. 日 時：平成13年6月27日（水） 10：10～10：50
2. 場 所：内閣府庁舎3階特別会議室
3. 出席委員：大森委員長、朝倉委員長代理、小野委員、出塚委員、東海委員、長倉委員、
外園委員
4. 議事次第
 - (1) 委員及び出席者紹介
 - (2) 内閣府独立行政法人評価委員会令の改正概要説明
 - (3) 分科会委員の指名
 - (4) 委員会議事規則の改正
 - (5) 委員会と分科会の役割分担
 - (6) アジア歴史資料センター業務の説明
 - (7) その他
5. 議事
 - 委員（資料2）及び出席者紹介

江利川内閣府官房長あいさつ

江利川官房長 官房長の江利川でございます。本日は、委員の先生方には大変お忙しいところを御出席賜りまして誠にありがとうございます。

今日は第2回目ということでございますが、第1回委員会において国会日程が急に入りまして、ごあいさつをさせていただくことができず、大変失礼いたしました。

今回の中央省庁等改革の柱の一つでありますこの独立行政法人制度は、国が行う政策の企画立案と実施機能を分離し、その実施機能の部分について独立の法人格を有する独立行政法人を設立して、その事務事業を行わせるということでございまして、それによりまして効率性の向上、質の向上、透明性の確保を図っていくものでございます。

従前、国の行政機関であったものを独立行政法人にして自由度を増すと、増す代わりに一方、評価委員会を設けて評価機能を強化して、それによってバランスを取ること

でございます、この評価委員会制度の役割というのは大変貴重なものがあるというふう
に思っているわけでございます。

国立公文書館の関係、それから駐留軍等働者の労務管理事務の一部、これが独立行政法
人に移るわけでございますが、今後、さまざまな御議論を精力的にお願いすることになり
ますけれども、どうぞよろしくお願いたします。簡単でございますが、ごあいさつとい
たします。

大森委員長 ありがとうございます。

それでは、本日の議事に入らせていただきます。本日全委員御出席でございますので、
有効に本委員会は成立してございます。

まず最初に、4月1日付で内閣府独立行政法人評価委員会令の改正がございましたので、
これを資料に基づいて事務局から御説明いただきます。

資料1に基づき内閣府独立行政法人評価委員会令の一部改正の内容を武川評価官が説明

資料2に基づき国立公文書館分科会及び駐留軍等労働者労務管理機構分科会に属する委 員を武川評価官が紹介

資料3に基づき委員会議事規則の改正(案)を武川評価官が説明

< 質疑 >

大森委員長 この委員会議事規則について何か御質問等ございますか。

特段そんなに複雑なこともあるわけでもないですね。よろしいですか。こういう形で会
議を運営させていただきますけれども、それでは、原案どおりこの議事規則を定めさせて
いただくことにいたします。

< 議事規則改正(案)了承 >

それでは、次に、委員会とこの分科会の役割分担につきましてお諮りいたします。まず、
それがどういうふうになるのかということ事務局から御説明いただきます。

資料4に基づき委員会と分科会の役割分担(案)を武川評価官が説明

< 質 疑 >

大森委員長 ありがとうございます。

何かお気づきの点、御質問等ございます。

小野委員 分科会の(2)の②ですね、「利益」と書いてあるわけですが、国立公文書館とか駐留軍の関係で利益というのはどういうものなのですか。

武川評価官 決算を行った後、剰余金が出るということでございます。

小野委員 あるのかということなのですが、国立公文書館などに。

- **武川評価官** 実際に、経費の委託業務等で、思ったより安く委託ができたとか、できる限り経費削減に努めるということでございます。

江利川官房長 予算よりも少し効率的に済んだときの剰余金という意味です。

大森委員長 よろしいですか。

それでは、委員会と分科会、このような役割分担に基づいて今後審議をさせていただくことにいたします。ありがとうございました。

<委員会と分科会の役割(案)了承>

それから、次、本年度開設が予定されておりますアジア資料センターにつきまして御説明をいただきます。

資料5に基づきアジア歴史資料センター業務について井上開設準備室長が説明

<質疑>

大森委員長 ありがとうございました。何か御質問等ございますか。

これは、本年度中には開始できるのですか。

井上開設準備室長 平成13年度中に開始するというので、今、所要の準備を進めております。

大森委員長 このオフィスは、ずっとここを借り続けるのですか。

井上開設準備室長 とりあえずは、ここを借りるつもりでおります。何だかの事情、手狭等になれば変えることも考えますけれども、当面はこのオフィスを借りる予定でございます。

大森委員長 この歴史資料センターの予算は、別建てになっているのですか。

井上開設準備室長 国立公文書館の交付金の中の予算でございます。

大森委員長 交付金の中に入ってきて、しかしこのセンター絡みの話は若干区別されるのですか。

井上開設準備室長 事業費は割と見やすい形になっておりますが、管理費等については公文書館と一緒に予算に入っております。

大森委員長 それから、公文書館、外交史料館から毎年CDの提供を受けますでしょう。

ここに掛かる経費は、所蔵機関で持っているのですか。

井上開設準備室長 この一番下の括弧の中にあります、マイクロ化とデジタル化の資料、これは各機関の予算になります。

大森委員長 これは、先ほど御紹介の閣議決定に基づいてここへ必要なお金が配分されることになるのですか。

井上開設準備室長 はい、各機関で予算要求して、それは付いております。

大森委員長 御質問、御意見等ございますでしょうか。

外園先生、実際に稼働したら一度やってみてもらえますか。

外園委員 私、日本歴史学協会の常任委員としまして、先日本お伺いしました。

大変なお仕事ですけれども、アジアとの関係が厳しい現在、ここがきっちりと仕事をしてくださったら、5年後、10年後には良い成果を挙げられると思います。ですから、資料を幅広く集めていただきたいと思います。

大森委員長 これらにつきまして、何かお気づきの点ございますか。

長倉委員 非常に技術的なことですが、220万個のキーワードを与えてということですが、キーワードのシソーラスはもうできているのですか。それとも、これからですか。

井上開設準備室長 これからでございます。

長倉委員 そうですか。それに対する、ワーキング・グループみたいなものはおつくりになる予定ですか。

井上開設準備室長 はい、これからワーキング・グループと言いますか、それをチェックするシステムをつくりたいと思います。

長倉委員 それは今年度ですか。

井上開設準備室長 勿論今年度、開設前にです。

長倉委員 そうですか。それは、そちらの職員でやっているのですか、別の人員を要求されるとか、アルバイトを要求されるのですか。

井上開設準備室長 センターの人員だけでは難しいと思いますので、そういった嘱託、あるいは臨時の形でお願いすることになると思います。

長倉委員 わかりました。

大森委員長 ちなみに、その準備室はどのぐらいの人員なのですか。

井上開設準備室長 今、私を含めて6人です。

大森委員長 ほとんど外注なのですか。

井上開設準備室長 キーワード付与については外注でございます。

外園委員 その6人の方の内訳をお教え願います。

井上開設準備室長 内訳を申し上げますと、私は外務省でございます。私を含めて外務省から4人、それから文部科学省から2人来ていただいております、計6人でございます。

大森委員長 よろしいですか。それでは、大変な作業ですけれども、頑張っておこなっていただければと思います。よろしくお願いいたします。

井上開設準備室長 よろしくお願いたします。

資料6に基づき今年度の委員会の開催予定について武川評価官が説明

その他

大森委員長 何かお気付きの点はございますか。では、大体こんなスケジュールで運営させていただきますのでよろしくお願いいたします。

最後に、先般、5月22日の日に私と外園先生と国立公文書館を視察に行っていました。当日、修復作業などもございまして、大変興味深かったです。

それから、30周年記念の特別展をやっています、ここも大変興味深いものが大分並んでおりました。また、役員の方々との御意見の交換などもございまして、大変有意義でございました。ほかの先生方も、もしお時間があれば、どうぞ一度行っていただければと思っております。恐らく、駐留軍の方も現地視察なども1回させていただいた方が、現場感覚があってよろしいですので、またそういうことをお諮り申し上げ、御報告でございますけれども、そんなことでございました。

この本委員会としては、本日の議題は以上でございます。何かお気付きの点はございます。この後、第1回の分科会をさっそく開催させていただきますので、本委員会としては、これで一応終了させていただきますけれども、よろしいですか。

それでは、本日この委員会としては終了させていただきます。